

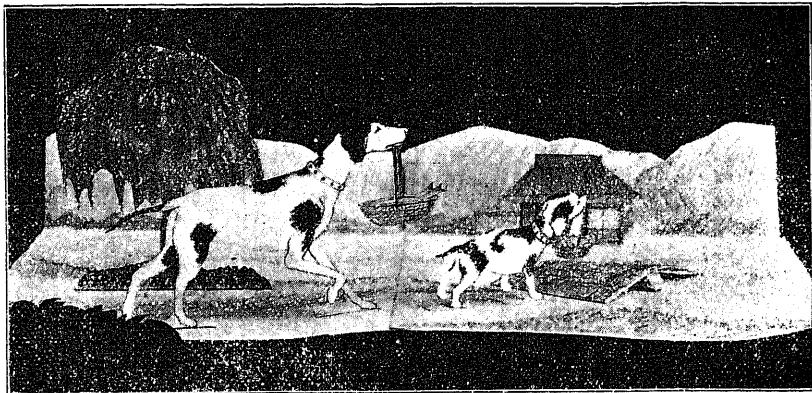
切 紙 (猫のお見舞)

及川ふみ

「幼兒の樂しむ話」の中の猫のお見舞のお話はいつも新入幼兒にきかせてよろこばれて居る。新入幼兒でなくともほんとに可愛らしい面白いお話で私自身も大好きなお話である。

× × ×

「猫の玉子さんは可愛らしいお嬢さんです。眼がくる／＼そして眞白な毛です。お友達も澤山あります。大きな犬さんも小さな犬さんもお庭の木にくさりでつないであるお猿さんもみんな仲のいいお友達です。その中どうしたのか玉子さんが御病氣になつてしまひました。遊ぶこともいやだし御馳走も食べられな
いし、小さな箱の中で赤いふとんをしいてねて居ました。日頃仲のいい大きな犬と小さな犬とが相談しても見舞にゆくことになりました。



「玉子さんが居ないで寂しい事ね、何をお見舞に上げませうか」

「玉子さんは、かつをぶしがち好きだつたのね時々あれをかぢつたり、しやぶつたりして居たぢやありませんか」

「でもね今度の御病氣は何でも鰹節をかぢり過ぎたとかいふことなの。何しろ堅いから食べ過ぎてお腹をわるくしたものでせうよ」

「さうそれぢや困るのね大根も食べないしきやべつも厭ひの様だし、やつぱりお魚がいい様ね柔かくておいしいお魚にしませう」

「それがいい。それがいい。どれ／＼買つて來ませうか」

大きい犬は大きな籠に大きなお魚を一尾かつて入れました。

小さい犬は小さいお魚を一尾買つて入れました。

二人はそれを提げてお家を出ました。
道に水たまりがありました。

大きい犬は大きな音でジャブ／＼＼＼＼
小さい犬は小さな音でジャブ／＼＼＼＼
と歩きました。



小さな犬は小さな音でトン／＼＼＼＼

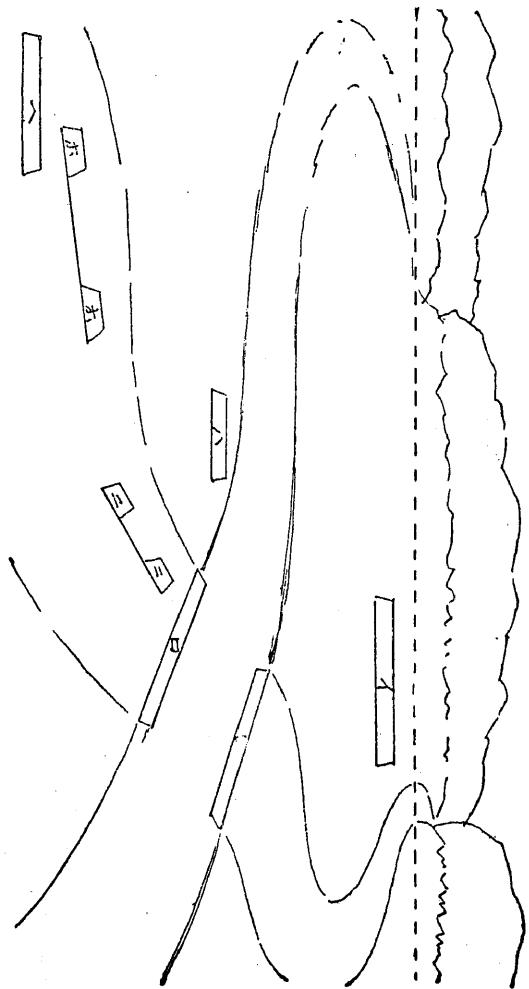
向ふから外の、犬がきました。大きな犬は大きな聲でワン／＼＼＼＼ 小さい犬は小さい聲でワン／＼＼＼＼

とおおぎをしました。

玉子さんのお家につきました。大きな犬は大きく、ガラ／＼＼＼＼ 小さい犬は少さく

きく、ガラ／＼＼＼＼ と格子をあけました。

大きい犬は大きい聲で

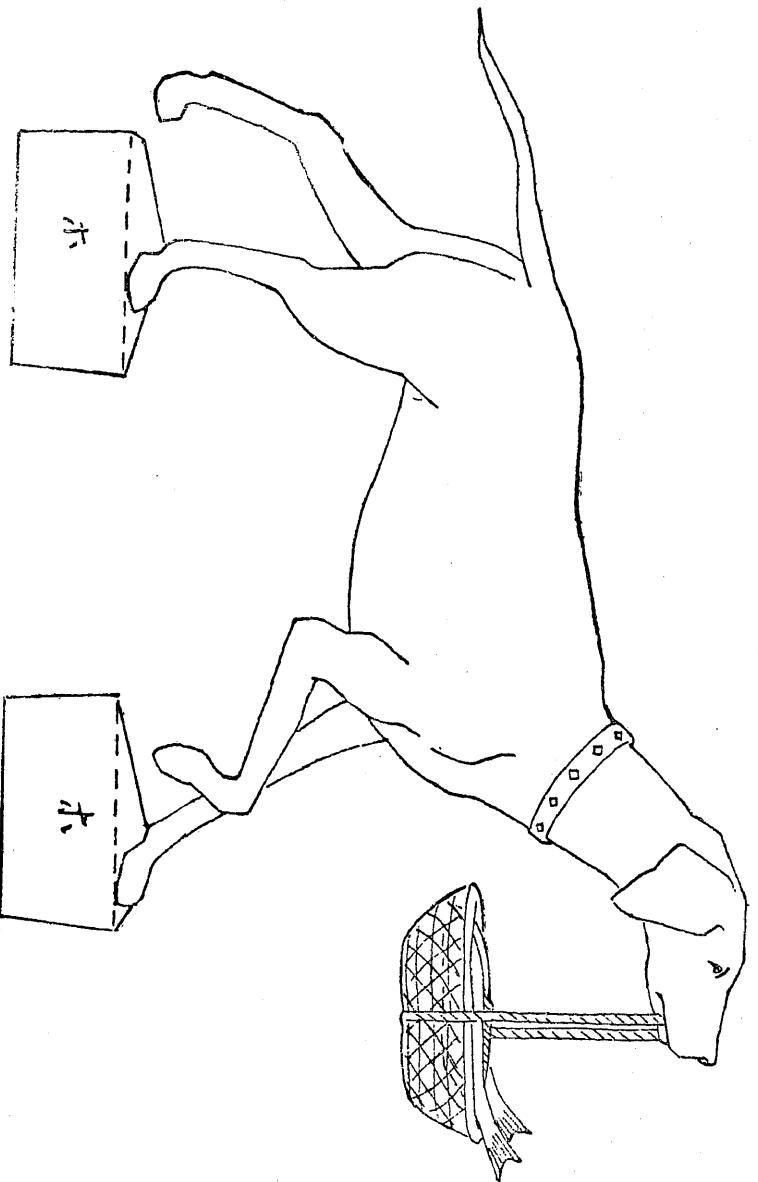


第一圖

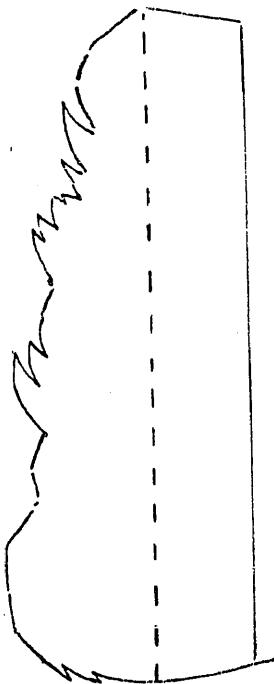
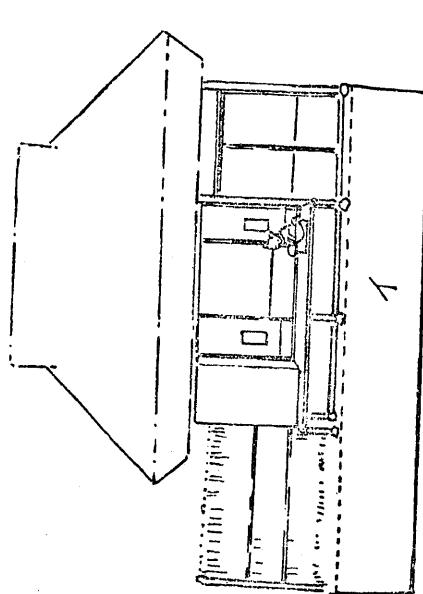
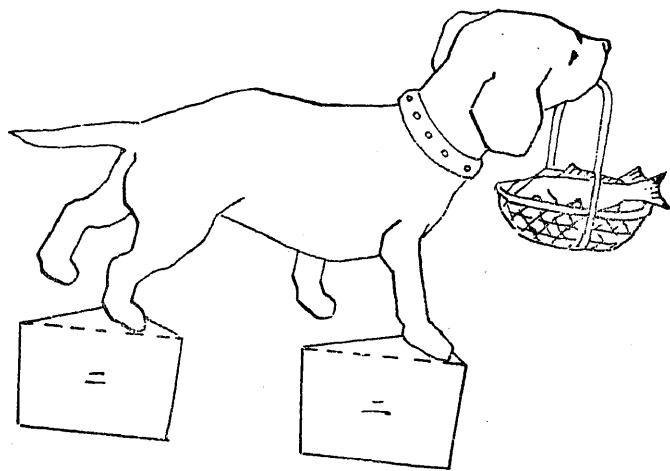
第

二

圖

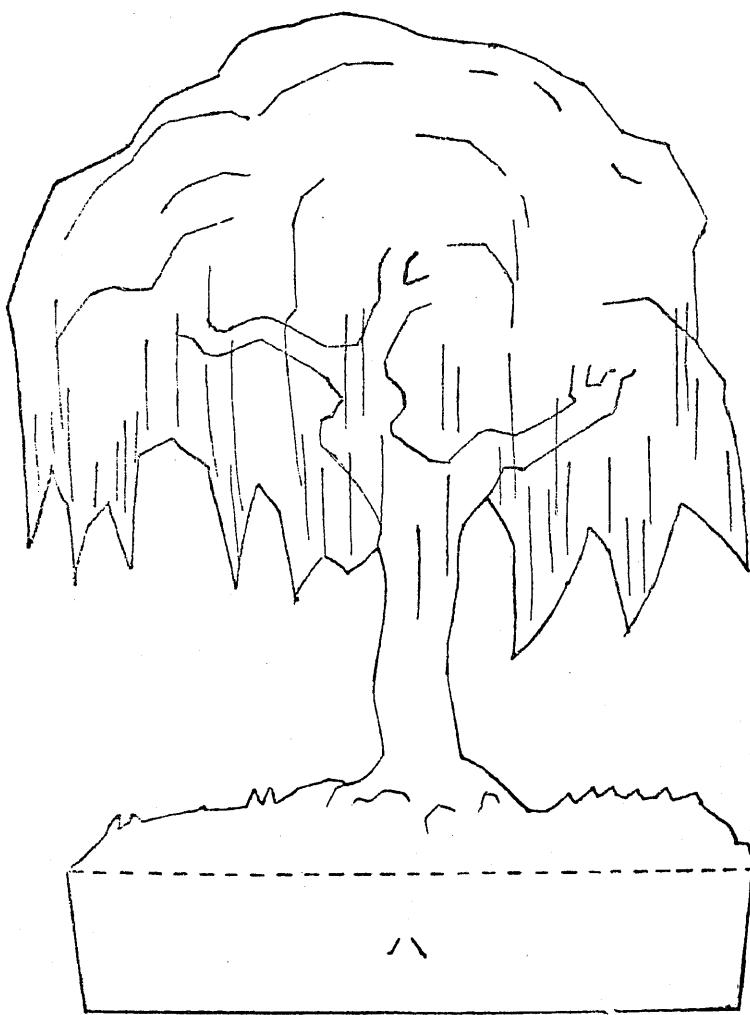


七四

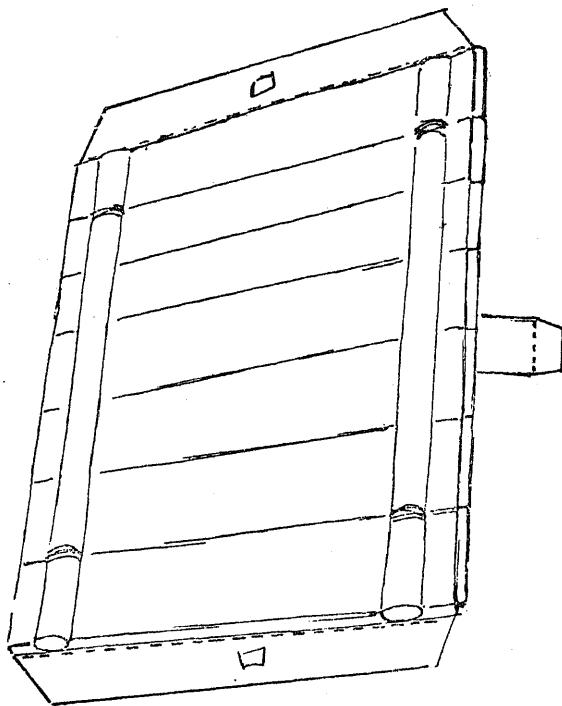


七

第三圖



第一四圖



第五圖

「猫の玉子さん御病氣はいかゞ、遊べないでつ
まりませんね、これをあ見舞に上げませう召し
上つて下さいねお大事に早くなほつて又御一緒
に遊びませうね」

小さい犬は小さい聲でやつぱりそう申
しました。

玉子さんはほんとうに嬉しうございま
した。さびしかつたところですもの。そ
れからあいしいお魚もうれしかつたので
す。

「ありがたう、ありがたう早くなほつて
又遊んで頂戴ね。お猿さんにも何卒よろ
しく」

大きな犬は大きな聲で

「ではさよならガラ／＼／＼」

「小さい犬は小さい聲で

「ではお大事にさようならガラ／＼／＼」

又歸りにはトン／＼ チヤブ／＼と

橋を渡つたり水溜りを歩いたりしてお家へかへりました。

× × ×

この話中の橋を渡つて二匹の犬が見舞にゆくところです。

第一圖 背景台紙

これを畫用紙四ヶ切大に畫く、遠景の森、川、道田圃をクレヨン或は色鉛筆でねる。



右の場所へ次の第二第三第四第五第六圖の大小の犬その他をクレヨン或は色鉛筆でねつて切りぬき

たるものを作りつける。

これは年長幼児の材料としてこしらへて見たのであるが割合にきりぬく場面もなる場面も多いので數回にわたつて連續した作業として取扱ひたいのであります。背景はこの種の作業になれて居る幼児には定めた背景を與へずに幼児自身に畫かされた方がよいのであります。